

中国国家図書館におけるウェブサイトを通じた図書館サービスについて

中国国家図書館

逐次刊行物部主任 王 志庚

一、前言

IT技術の発展とインターネットの出現・普及は、図書館による資料管理とユーザーへのサービス提供に対して未曾有のチャンスをもたらした。ネットワーク環境下において、図書館間の協働と資源共有はより容易で効率的なものとなり、図書館ユーザー・サービスはより簡単で手軽なものとなった。ネットワーク環境下において、図書館はもはや一個の独立した存在ではなく、連合して一つのヴァーチャルな情報サービスの連盟を形成するようになった。ネットワーク環境下において、ユーザーももはや一個の独立した存在ではなく、多様な同好の共同コミュニティを自発的に形成するようになった。

ネットワーク環境下のユーザーの情報環境に多くの変化が生じた。図書館の所蔵資料のデジタル化と電子出版の発展によって、ネットワーク情報資源は質・量ともに増加・向上し、ユーザーは、図書館が自ら作成したデジタル資源とライセンス購読によるデジタル資源も含めて、より一層ネットワーク上で図書館資源を検索し取得することを希望するようになった。Googleを始めとした検索エンジンはより簡単な検索インターフェイスを提供し、より広く深い検索内容を提供し、より豊富な情報発見の経験を提供することで、科学者も含む多くのユーザーの重要な情報発見のルートとなった。図書館はもはや唯一の学術情報の情報源ではなくなり、ユーザーの情報発見行為は検索エンジンの影響を受けるようになった。

また、Wiki、IM (Instant Messenger)、Blog、RSSなどの情報共有・交流のツールの出現及び発展は、個人の専属的・個性的な情報環境の構築を可能にした。このため、能動的、リアルタイムの、かつ個人を対象とし、二次的なデータ統合や応用をサポートするサービスを提供するために、ウェブサイトやその他のサービス・ツールをどのように企画・設計するのが、新時代の図書館経営者が直面している一つの課題となっている。

二、三大戦略

人類社会が21世紀に入ってコンピュータ技術やネットワーク技術等の高度で新しい技術が急スピードで発展すると同時に、次第にそれらは図書館領域にも応用されるようになり、また人々の精神文化への要望も急スピードで増長し、図書館の知識サービスについてもより高度な要求を出すようになった。わが国の『「小康社会（いづらか余裕のある社会）」を構築する』という発展戦略において、文化事業は民族復興という偉業を実現する中核の力となっている。その結果、国家が当館を重視する程度も日々高まり、当館を文化体制改革の試行組織とただだけでなく、第10期五カ年計画期間中に巨額の資金を投入した「中国国家図書館二期工事及び国家デジタル図書館プロジェクト」の建設など、これらは当館の発展のための得難いチャンスと同時に課題を提示している。しかし、当館の現在の発展レベルと世界の一流国立図書館の基準との間にはまだ大きな格差が存在しており、それは主に人材・科学技術・サービス等の方面に現れている。人材は相対的に欠乏しており、科学技術力は薄弱であり、またサービス能力は弱いので、まだ当館を現代化・国際化された国立図書館と呼ぶことはできない。この状況を根本から変えるために、長時間の調査研究と準備、そして真剣な討論と決定を経て、当館は「人材興館（人材でもって館を興す）」「科技強館（科学技術でもって館を強くする）」「サービス立館（サービスでもって館を立たせる）」という三大戦略とその実施方を提示した。

「三大戦略」は一つの有機体である。人材、科学技術、サービスは国家図書館の業務と事業を支える三大要素である。人材資源は既に最重要戦略資源となっており、また人材は既に事業を推進して発展させる肝心の要素となっている。科学技術は既に図書館業務と図書館事業に斬新なプラットフォームを提供し、また同様に図書館業務と図書館事業の不断の発展の直接の推進力となっている。サービスは全ての図書館業務の出発点であり帰着点でもあり、国家図書館の職能を有効に発揮できるかどうかの鍵である。質の高い人材グループを構築し、科学研究と業務領域における科学技術の適用を強化し、それぞれの管理施策を制定・改善を行うのは、つまるところ図書館サービスを高め、社会公衆により図書館資源を利用してもらうためなのである。人材・科学技術・サービスの三者を見ると、人材が基礎であり、科学技術が手段であり、サービスが目的である。

三、サービス立館

3.1 基本的な考え方

“3つの代表”という重要思想に依拠し、公益的な文化機関としての組織を堅持し、科学の発展観を樹立して実行し、各種の高度な技術を十分に利用し、“生涯学習システムを構築し、学習型社会を作る”というサービスのために利用者の情報・知識に対する要望を最大

限に満足させる。

3.2 目標

「サービスで館を立たせる」の全体目標は次の通りである。サービスに対する考え方を刷新し、サービス領域を広く開拓し、サービス施策を完全なものとし、サービスを強化し、サービス環境を改善すること等を通して、国家図書館のサービス職責を全面的に履行し、利用者を中心とし、資源に基づいた学習環境と研究環境により、社会における知識の伝播と情報サービスの中核的地位を確立し、多くの利用者が多くのルートから情報を入手する要求を最大限に満足させる。

3.3 主な内容

当館のサービス対象を4層に区分し、一つ目は中央国家機関のための立法・政策決定サービスであり、二つ目は全国の教育、科学研究、企業及び事業機関のためのサービスであり、三つ目は社会公衆の生涯教育のためであり、四つ目は図書館界のためのサービスとする。

当館は四つのサービス対象に応じたサービス内容を制定する。

- 1) 中央国家機関に対して、専門部署を設けて立法・政策決定に資するサービスを展開する。
- 2) 立法・政策決定に対するサービスのため、文献情報レファレンス・プラットフォームと文献情報保障システムを構築する
- 3) 文献提供サービスの発展に大いに努め、デジタル資源マッチングのシステムを導入あるいは開発する
- 4) サブジェクトライブラリアンによるサービス制度を試行する
- 5) 遠隔教育・訓練に重点を置いた「国家図書館 e-ラーニング・センター」をネットワーク上に構築する
- 6) 高水準の知識講座を実施する
- 7) 中国語文献総合目録サービスを提供する
- 8) 国内外の図書館の発展の大勢を把握し、それらを図書館界の業務研修に展開する

四、ウェブサイトを通じたサービス

当館はこれまでずっと積極的に新しい技術・ツールを採用して図書館の業務管理と利用

者サービスを改善し高めてきた。ここ 10 年では、当館は比較的成熟しかつ先進的な IT 設備を構築している。これらの基盤設備をまとめると、1996 年に 1000 メガバイトの LAN を構築して同時にインターネットに接続し、1997 年 10 月にサイトを開設し、2002 年に Alehp500 を導入して管理システムを自動化し、2004 年に Metalib/SFX システムを導入し、2006 年に Apabi システムを導入した。図書館のウェブサイトは図書館サービスの窓口であり、今日私は当館のサイトについて報告していくこととする。

1997 年 10 月にサイトを開設し、その後 8 度の改訂を経て、当初の簡単な図書館の業務やサービスの宣伝サイトから所蔵資料検索、情報サービス、情報資源の統合、カスタマイズされたサービスサイトへの変化の実現に成功した。現在国家図書館がインターネットを通じて提供している主なサービスを以下に紹介する。

4.1 所蔵資料の検索

このサービスはネットワーク・ユーザー（登録ユーザーとゲストユーザー）に対して国家図書館所蔵資料の検索を提供しており、登録ユーザーはオンライン予約や貸出期間の延長を行うことができる。このサービスはユーザーの所蔵資料検索をサポートするだけでなく、図書館の排架情報、資料利用に関する事項、サービス時間等も提供するものである。ユーザーは、電子ジャーナルや電子図書・データベースなども含めた電子化所蔵資料の検索もできる。

4.2 情報資源の統合

当館の Metalib/SFX を基に構築された図書館のポータルは、新しく作られた図書館資料の公共サービスのプラットフォームであり、その趣旨は当館の所蔵する言語、分野、媒体、資料群毎に分散している印刷・電子の情報資源を有機的に統合し、社会公衆に対して便利で迅速なワンストップ式検索と情報入手サービスを提供することである。このポータルによって、当館が購読あるいは作成した 40 種類のデータベースと、70 種類の外国語データベース、20,000 種類以上の中国語・外国語のデータベース、学位論文・会議録等の情報資源から国家図書館 OPAC システムまでを有機的に統合することによって、これら資源をシームレスにリンクできるようになった。このポータル・システムは横断検索、オープンアクセス、原資料の入手、選択的情報提供サービス、パーソナライズドサービス等のサービスを提供している。

4.3 ウェブレファレンスデスク

2004年國家図書館はCDIVRD ヴァーチャルレファレンスシステムを開発した。当システムは2004年に中関村高科技園区の企業サービスプラットフォームに応用された。そして2006年の利用者サービスウィークに正式に一般公開された。当システムは、ヴァーチャルレファレンスサービス形式で、國家図書館の蔵書とサービスを利用して一般利用者の質問への回答とガイドを24時間提供するというものである。

8月15日までの2ヶ月半の期間で、ウェブレファレンスデスクが利用者に提供してきたリアルタイム・レファレンスは全部で2,000件余、フォーム・レファレンスは600件余で、利用者の閲覧は5,000回余り、アクセス件数は1万9千件余にのぼった。ユーザーの地域分布から見ると、北京地域のユーザーの割合が最も多く常に一定して50～55%前後を占める。その他の地域はアクセスの多い順に江蘇、湖北、重慶、陝西、上海等である。国外ユーザーの割合は少なく、1～2%前後で、ヨーロッパからのアクセスが最も多い。ウェブレファレンスデスクユーザーの中では大学関係者の割合が70%近くあり、それ以外が社会人である。質問の内容は現在のところほとんどすべての分野に及んでいるが、比較的質問が集中するのは資料の検索方法と図書館のサービス方針の二種類である。ウェブレファレンスデスクを開始してから3ヶ月になるが、1日平均のリアルタイム・レファレンスの受理数は延べ30人、フォーム・レファレンスは20件余である。

4.4 オンライン講座とオンライン展示

社会の公衆の継続教育のためにサービスを提供することは「サービス立館」戦略の内容の一つである。学術講座は國家図書館が社会や大衆に向けて行っている学術文化シリーズ講座である。現在開催されている講座は「中国典籍と文化」と「文津講壇」のシリーズである。利用者は直接来場して講義を聴いてもよいし、インターネットでオンライン講座プログラムから講義を聴いてもよい。

展示は利用者教育と蔵書紹介の重要な手段である。中国の優れた古代文化典籍の保存、中華文化の伝承者の育成、継続教育・社会教育機能の実現を目的として、当館では毎年テーマ展示を行っている。これらの展示はホームページに掲載し利用者の閲覧に供している。

4.5 オープンアクセスリポジトリ

オープンアクセスは学術情報の新しい流通形式で、全世界の学者と図書館員から広く支持されている。國家図書館では科学知識の収集、整理、保存、普及を自らの任務と考えており、以前から学術情報の広範なアクセスと公平な普及に尽力している。近年、國家図書館では専門の研究グループを設置し、国際的なオープンアクセス運動の動向をつぶさに追いつき、オープンアクセスを中国に採り入れるための理論と方法を研究し、実践活動を推し進めた。オープンアクセスリポジトリ (Open Access Repository) はオープンアクセスを実現した主要な形式である。オープンアクセスの考え方の提唱、オープンアクセスの理念の

宣伝、オープンアクセスの中国における実践と発展の推進、学術情報の広い普及と交流を目的として国家図書館では国内で最初に「中国図書館情報学リポジトリ」を開始した。これは我が国初の社会に公開された主題型オープンアクセスリポジトリであり、このリポジトリの構築は全国の図書館学、情報学、情報管理学の教員、学生、全国の図書館員にオープンアクセスの学術環境を提供するとともに、実際の行動によってオープンアクセス運動を支持しているのである。なお国家図書館のオープンアクセスリポジトリにはDSpaceを採用している。

4.6 文津図書賞

「国家図書館文津図書賞」は国家図書館が主催する公益的文化活動である。選出活動を通じて、利用者の嗜好を反映させるとともに、文化的方面への消費を促し、社会の読書習慣を培い、作家はいい本を書き、出版者はいい本を出版し、読者はいい本を読むという好ましい社会の雰囲気を作り出されることを望んでいる。この賞では毎年一回、毎回10冊の受賞図書を選出している。選出範囲は哲学社会科学と自然科学分野の大衆的読み物で、特に知識の普及・情操教育に役立つものや、公衆の人文的素養・科学的素養を高める一般書に重点を置いている。受賞図書は一般投票と専門家の審査を組み合わせる方法で選出される。文津図書賞のトップページは利用者が選出活動に参加しやすいように設置したもので、利用者が図書を推薦し、閲覧し、賞の選出に参加するプラットフォームである。

4.7 文津利用者賞

国家図書館では毎年12月の全民読書月間にその年の読書の模範を選出・表彰している。選出基準は国家図書館の資料を利用している利用者を中心であったが、国家図書館の資料の利用、蔵書構築、サービス監督のうち一つの分野において積極的な役割を果たした利用者であればすべて候補者になってよいというふうに変更され、「国家図書館模範利用者模範」は正式に「国家図書館文津利用者賞」と改められた。多くの利用者が国家図書館の文献資源とサービスを利用して、たくさん、しかもいい本を読み、学ぶことで有用な知識を得、学ぶことで成果、それも多くの成果を生み出すのを促進させるというのが当賞の趣旨である。また国家図書館の蔵書構築、制度の整備及び事業の発展について利用者へ広報する目的もある。

4.8 所蔵貴重資料

国家図書館では特別コレクションの電子化をした後、全文画像データベースを製作し、利用者に公開している。

「碑帖精華」とは拓本のデータベースである。拓本は中華民族の文献を記録した重要な媒体である。当館では歴代の甲骨、青銅器、石刻等の拓本23万件余を所蔵している。その拓本の内容の豊富さはあらゆるものを網羅しているといつてよい。現在当データベースに

は既にメタデータ 19,943 件、画像 25,000 件以上を搭載している。

「敦煌遺珍」とは国際敦煌プロジェクト（略称IDP）の成果である。当プロジェクトは敦煌文物文献保護、研究及びデジタル化に関する国際協力組織である。1993年にイギリスのサセックスに中国国家図書館、英国図書館、ニューデリー国立博物館、フランス国立図書館、ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支所、ベルリン国立図書館等敦煌文物を収蔵している主要機関の研究者が集まって会議を開催し、IDPの設立と敦煌収蔵品の共同保護研究について合意した。1994年にはIDPが正式に発足し、事務局が英国図書館に置かれた。IDPの目的はデジタル化技術とネットワーク化技術によって敦煌文献の目録データと自筆稿本画像を統一した基準とフォーマットによってデータベースに整理し、ウェブ上で公開して無償で研究者の利用に供するというものである。現在目録資料10,773件、写本500巻余、画像6,000件余、活動記録等のアーカイブ400件余がインターネット上に公開されている。

「西夏砕金」とは国家図書館所蔵の西夏文献のデータベースである。西夏文献は西夏仏教史研究において重要な価値を有している。このデータベースには西夏古籍目録データ125件、画像データ5,000件、西夏研究論文1,200本余、西夏研究論文の全文画像ファイル9,700件が搭載されている。

「デジタル地方志」とは地方志の全文データベースである。地方志資料は我が国独特の文献類型であり、当館独自のコレクションの一つでもある。デジタル化方式を採用し、清代を含む清代以前の地方志資料を整理し、手を入れて編纂して中華特色文化の保存、普及、研究、開発に役立てている。当データベースには現在 2,834 件の全文データが搭載されている。

「民国雑誌」は民国期の中国語雑誌の全文データベースである。民国期雑誌は国家図書館が保存している民国時期の資料の一つである。当館では既に所蔵民国雑誌のマイクロフィルムの製作を完成しているが、近年ではマイクロフィルムのデジタルスキャン作業を進めており、3年以内にマイクロフィルム約600万コマのデジタル化作業を完成する見込みである。現在のところ当データベースには3,337誌が搭載されており、2,756誌の電子画像の全文が閲覧できる。

4.9 動向情報

国家図書館ホームページのコンテンツを充実させるために、動向情報を提供する項目を立てた。「今日は何の日（歴史上の今日）」は毎日更新しており、その日の重要な歴史的出来事を掲載している。「国家図書館重大ニュース」には国家図書館の最新情報を、「文化焦点」には最新の文化ニュースを、「業界動向」には図書館界のニュースをそれぞれ掲載している。

五、おわりに

ネットワーク環境下において、図書館利用者は流出しつつある。我々の図書館への利用者の来館の増加は望めないし、我々のサイトへのアクセス増加はなおさら望めない。そこで我々は当館の資料とサービスを外部に発信し、利用者やネットユーザーが必要としている情報環境中に送り出して行かなければならない。この面において貴館と一緒の協力と情報交換を希望する。